

はじめに

本論集は、千葉大学大学院人文公共学府の研究プロジェクト（2021～22年度）「近代東アジアにおける国家と個人」の報告書である。

この大テーマに即する形で、大韓帝国時代の学校教科書に対する統監府の干渉と抵抗、植民地朝鮮における在朝日本人地主の特質、明治末期の教育雑誌における「中国留学生」に対する認識、戦時下における日本赤十字社と看護婦養成の実際、日中戦争下における中国人向けの帝国大学情報について、5名が2年間の研究成果をまとめた。

20世紀前半の東アジアにおいて、大日本帝国と大韓帝国あるいは清朝／中華民国がどのような関係性を持ったのか。またその中に包摂され、あるいは抵抗した個人（民衆）の様態はどのようなものであったのかについて、一定の見取り図（同時に今後取り組むべき課題）を示すことができたと考えている。

このテーマ自体きわめて大きなもので、課題は山のように残されていることは言うまでもない。引き続き、研鑽しながら、研究を継続し、それぞれの深化を図っていきたいと考えている。

2023年2月28日

見城悌治